

**2025(令和7)年度
一般社団法人静岡県精神保健福祉士協会
定時社員総会 議案書**

1. 開会

2. 会長挨拶

3. 議長選出

4. 書記、議事録署名人選出

5. 資格審査

6. 議 事

第1号議案 2024年度事業報告

第2号議案 2024年度決算報告及び会計監査報告

第3号議案 2025年度及び2026年度役員選任に関する件

報告事項1 2025年度事業計画（案）及び2025年度予算（案）

7. 議長解任

8. 連絡事項

9. 閉会

一般社団法人 静岡県精神保健福祉士協会

議 事

【第1号議案】2024年度事業報告及び収支決算報告に関する件

一般社団法人静岡県精神保健福祉士協会 2024年度事業報告 (自：2024年4月1日 至：2025年3月31日)

定款第3条の目的を達成するため、定款第4条に基づき、次の事業に取り組んだ。

I 2024年度活動指針

1. 一般社団法人静岡県精神保健福祉士協会活動指針

- (1) 社会的責務を果たすことのできる人材育成を行い、会員の資質の向上を図る
- (2) 精神障害者の社会的復権をめざし、誰もが安心して暮らすことができる地域をつくる
- (3) 県民のこころの健康の増進を図る

2. 2024年度 重点課題と振り返り

(1) 人材育成

- ①専門職としてのキャリア形成をより効果的、効率的に実施できる体制整備を再構築する
 - ・ブロック単位での研修企画運営の定着化を図り、中核人材の育成へつなげる
 - ・効果的なキャリア形成を図るため、生涯研修制度（改正）の理解及び活用を促進し、人材育成ビジョンを作成する
 - ・スーパービジョンを実施するために、スーパーバイザーの養成及びグループスーパービジョンの普及につとめる
 - ・各ブロックにおいてピアサポーター養成のための人材育成とピアサポーターが活躍できる土壌をつくる
 - ・権利擁護を我が事として捉えられる人材を育成していく

<振り返り>

- ・ベーシック研修を西部ブロック、秋季研修を中部ブロック、冬季研修を東部ブロックと、県協会の定期研修の企画運営を各ブロックが担うことで、中核人材の育成となり、ブロック活動自体の強化にもつながった
- ・前年度とブロックの担当研修を変えることで、全体の研修企画立案のボトムアップを図った
- ・ベーシック研修において「さくらセット」の紹介を実施したが、協会員全体への普及、理解・活用の促進までには至らなかった
- ・人材育成ビジョンを作成するには至らなかった
- ・日本協会の東海北陸ブロックグループスーパービジョンに理事が4回参加したが、普及には至らなかった
- ・日本協会認定スーパーバイザー養成研修に理事1名が参加し、今後のスーパービジョン体制の強化につながった
- ・前年度の冬季研修から今年度の秋季研修につなげ、ピアの参画の機会を広げた
- ・県主催のピアサポーター養成研修にかかわる人員を増やすことができた
- ・多職種・多機関の研修への参画、講師派遣等を通して、ネットワーク構築とともに、幅広い研鑽の機会につながった。

（２）政策提言

- ①「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の構築を目指す中で顕在化する課題に対し、県及び政令市に対し適時適切に政策提言を行う
- ②権利擁護にかかわる課題に対し、県及び政令市と継続的な検討及び具体的な取り組みへつなげる
権利擁護 WG が中心となって様々な場面で生じる権利侵害に対してアドボカシーの視点に立った声明を
発し、行政機関に対して具体的な働きかけをする
上記①②に関しては、ブロック活動及び課題別ワーキンググループ等からの意見集約より地域課題化
を図り、具体的な政策提言へとつなげる
- ③日本精神保健福祉士協会から要請のあるソーシャルアクションに積極的に協力する

＜振り返り＞

- ・共生社会の実現のため、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」構築を目指すにあたり、行政、当事者、市民との協働を図ると共に、地域の精神保健医療福祉上のニーズや課題を行政と共有するための基盤づくりに取り組んだ
- 併せて、最新の知識を学ぶ機会を設け、政策提言につながるネットワークづくりに取り組んだ
- ・地域生活支援拠点等の整備に関する研修を会員以外の他団体他職種に向けて実施し、行政機関の参加を促し、静岡県各市町の「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」構築に寄与した
- ・県の協議会へ派遣し、ソーシャルワーク機能や権利擁護の視点を意識した提言をした
- ・精神保健福祉法が改正され、目的に「精神障害者の権利の擁護を図る」ことが明記され、それを具現化すべく、意思決定支援の意識調査の準備、権利擁護に関わる委員会（入院者訪問支援事業、精神医療審査会等）等に委員を派遣し、精神保健福祉士としての発言に努めた
- 一方で、現実には起きている権利侵害の検証や提案等に関しては検討の段階にとどまった
- ・相談 WG において意思決定支援についての意識及び実態把握の調査について協議した
- ・権利擁護に関わる委員会（入院者訪問支援事業、精神医療審査会等）等に参画し職能団体としての発言に努めた
- ・県内で起きた精神科病院での虐待事案に関して、その後の改善に向けた取組等の聞き取りを試みたが、先方との調整がつかず、実現には至らなかった
- ・日本協会の「精神保健医療福祉の将来ビジョン」の実現に向け取り組んでいる委員会等へ協会員を派遣し、必要なソーシャルアクションに積極的に寄与した
- ・静岡県からの委託事業で浮かび上がった課題を静岡県と協議し、地域課題として共有し、次年度への体制整備へとつなげた
- ・メンタルヘルスに関わる相談体制を整備するための準備として、メンタルヘルス P J（案）を立ち上げた
- ・受託事業（職業訓練校）で浮かび上がった課題を静岡県と協議し、次年度の体制整備へとつなげた
- ・県内において、精神科病院閉鎖が急遽決定したため、社会的復権と人権を擁護する観点から閉鎖に伴う対応についての要望書を行政へ提出した

（３）組織体制の強化

- ①2024 年度末の日本協会と県協会の円滑に一本化に向かい、日本協会及び県協会への入会促進を行う
- ②法人運営の安定化を図るため、事務局機能の強化及び収支バランスの適正化を目指す
 - ・規約整備を行う
 - ・安定的な事務局機能が図れる体制を作る
 - ・確実な会費徴収の仕組みを実施する

③各ブロックの地域性を活かした活動の活発化を図り、会員の協会活動への参加意識を高める

＜振り返り＞

- ・今年度も各ブロック単位での活動を行い、顔の見えるネットワークづくりに努め、同研修機会等を通して非会員にも参加・入会促進を図った。全体としては退職等に伴う退会者もあり、会員総数としては減少傾向にあり、抜本的な対策・働きかけが必要
- ・各ブロックで県全体を対象とした定例の研修会の企画運営を担当したことにより、ブロック協力委員会を中心とした組織体制の強化に繋がったものの、年間を通した研修内容の工夫や対象となる会員を想定したテーマ設定等の検討は継続課題
- ・災害時を想定した上記ブロック単位の活動と連動した形での体制整備は継続課題
- ・ワーキンググループ構成員等、人材育成を軸とした各会員が積極的に参画できる体制の整備は継続して検討していく必要がある
- ・法人運営の規約整備については一部のみ実施した。
- ・事務局体制については引き続き検討が必要な状況となっている
- ・会費徴収に関して、口座引き落とし手続きは会員の 52%が登録した。

Ⅱ 事業報告

1. 定時社員総会

会員数 403 名のうち出席者 59 名、委任状 207 名の合計 266 名で総会成立

日程	2024 年 6 月 1 日（土）	場所	静岡県総合社会福祉会館シズウエル
内容	2023 年度事業報告 2023 年度決算報告及び会計監査報告 2024 年度事業計画及び 2024 年度予算		
議事内容	【第 1 号議案】2023 年度事業報告 2023 年度事業報告に関する件 ・事業報告については川嶋副会長より報告 ・収支決算報告については山口事務局長より報告 [監事意見等] ・収支決算は問題なし。会計の処理は適切にできていると思われる。 ・会員数の減少、研修参加者の減少は、職能団体の責務として心配な点である。 ・様々な事業が増えていく中、事務局体制の強化を図る必要がある。 [質 疑] なし [決 議] 賛成多数により可決 【第 2 号議案】2023 年度決算報告及び会計監査報告 [質 疑] なし [決 議] 賛成多数により可決 【報告事項 1】2024 年度事業計画及び 2024 年度予算 ・事業計画については菅原会長より報告 ・収支予算については山口事務局長より報告 [質 疑] なし		

2. 理事会、委員会

(1) 通常理事会 4 回、理事の会合 6 回、三役会 10 回

日程や状況に応じて WEB も活用して開催した。

理事会	入退会に関する件、予算執行に関する件、業務執行に関する件 他
理事の会合	会員の状況確認、発送物の確認と検討、日本協会関係の確認・必要事項の検討 研修関連の確認・検討、後援・派遣の確認と検討、ブロック活動の確認 県内の状況確認・情報共有と協会としての課題・取り組みの検討 他
三役会	理事会での協議事項検討、協会運営方針の検討

(2) 事務局会議

開催頻度	月 1 回（毎月開催）	会 場	事務局
参加者	山口雅弘（事務局長）、望月信吾（事務局長補佐） 原田まゆみ（事務局員）、黒田麻喜（事務局員）		

(3) 部・委員会・ワーキング（一部再掲）

部・委員会			活動内容（実績）
事務局 (理事会)	総務		・会員管理、会計、委託事業を実施した
	広報	つうしん	・「(一社) 静岡 PSW つうしん」を年 3 回発行した
		ホームページ等	・ホームページの管理、情報更新をした ・ペーパーレス、WEB や SNS を利用した情報発信についてのアンケートを実施した
理事会	災害対策委員会		・他団体や関係団体主催の研修に参加した。 ・各種会議へ委員として参画した
	Web 環境整備プロジェクト		・チェックインシステムを運用、会員への情報発信を行った ・必要な機能は今後事務局が担っていき、PJ としての活動は終了となった
	50 周年記念事業		・50 周年記念式典の開催 ・記念誌の発行
	メンタルヘルス相談プロジェクト		・工科短期大学への派遣事業等、メンタルヘルスにかかわる事業からの課題集約を図った ・今後の体制について理事会等で検討を行った
	調査研究		・今年度実施なし
人材育成部	スーパービジョン体制整備 ワーキング		・グループスーパービジョン実施に向け、東海北陸ブロックのグループスーパービジョン体験会に参加した（11/18、12/17、1/14） ・スーパーバイザー養成研修へ会員を推薦した
地域体制 整備部	相談ワーキング		・ZOOM を活用しての WEB 会議を不定期開催、課題等について意見交換を行った ・実態調査実施に向けた準備を行った ・ワーキングメンバーについての検討した

地域体制整備部	医療ワーキング	・ZOOM を活用しての会議を開催 ・情報交換会を実施した（11/14 Zoom、18名参加） ・「病院閉鎖に伴う要望書」を権利擁護WGと協働作成した
	就労ワーキング	・県雇用推進室と雇用推進事業の在り方と有益性について引き続き協議した ・雇用推進コーディネーターに対して、アドバイザー事業の理解と共通認識を図った ・協会活動としての事業受託の意義と、次年度以降への提言を整理した。
組織強化部	ブロック	・ブロック活動の企画・実施（詳細は下記に記載）
	関係団体連携	・ソーシャルワーカー3団体連絡会議へ参加 ・ソーシャルワーカーデーフェス実行委員会への参画 ・実践研究学会等関連事業へ参画
権利擁護部	成年後見ワーキング	・成年後見WGと共同で委員会開催、現状把握と意見交換を行った ・成年後見制度受任者調整会議等、各種会議への参加 ・研修等への講師派遣（各行政主催「市民後見人養成講座」、市社協講座、ぱあとなあ研修会など） ・「クローバー」活動：しずおかクローバーの集い開催
	権利擁護ワーキング	・各種研修等への参加や研修講師の派遣等を行った ・裁判傍聴 ・研修企画への参画、協力を行った ・病院への聞き取りの検討・打診を行った ・「病院閉鎖に関する要望書」の作成に協力した ・弁護士会との連携・協働（精神保健当番弁護士活動に関する情報共有等） ・成年後見ワーキングと共に課題の整理検討を行った

（４）ブロック活動（日程未定）

ブロック	活動内容
東部	・会議の開催（ZOOM） ・まじめに勉強する会（ZOOM）3回（5月、9月、3月） ※3月はブロック研修と合同実施 ・MSW 協会合同事例研修会（1月）
中部	・会議の開催 【静岡地区】 ・法制度、地域生活支援拠点等に関する勉強会 ・市内の福祉関係者との交流会 ・2025年度ソーシャルワーカーデーに向けた準備、打ち合わせ 【志太榛原地区】 ・会員同士の交流を主に、オンラインにて勉強会を年3回開催 ・静岡福祉大学にて、学生との交流会を開催（11月）

西部	【中東遠地区】 ・活動の前後に協力員会議を開催した ・事例検討会の実施 ・オープンチャットの活用（協力員を軸に周知、現在の登録者 33 名）
	【浜松地区】 ・会議の開催（ZOOM） ・第 17 回浜松地区浜松地区精神保健福祉士等勉強会を開催（3 月、参加者 25 名）

3. 研修事業

（1）50 周年記念式典・記念講演 参加者 72 名

日程	2024 年 6 月 1 日（土）	場所	静岡県総合社会福祉会館シズウェル
内容	第 1 部 記念式典 第 2 部 記念講演 「原点回帰 ～未来の精神保健福祉士へのエール～」 講師：佐々木敏明 氏（元聖隷クリストファー大学社会福祉学部教授）		

（2）基幹研修Ⅰ 参加者 31 名

日 程	2024 年 7 月 20 日（土）	場所	グランシップ
内 容	講義等（公社）日本精神保健福祉士協会の委託事業として実施		
講義 1	「公益社団法人日本精神保健福祉士協会の役割と課題」 望月信吾（溝口病院）		
講義 2	「精神保健福祉士の専門性Ⅰ」 鵜飼太郎（静岡福祉大学）		
講義 3	「精神保健福祉士の実践論」 中村倫也（静岡県立こころの医療センター）		
演習 1	「グループワーク」 秋津崇史（サポートセンターりりぶ）		

（3）ベーシック研修（旧 初任者研修） 参加者 20 名

日 程	2023 年 7 月 20 日（土）、21 日（日）	場所	グランシップ
内 容	講義、実践報告、演習（20 日は基幹研修Ⅰと合同開催）		
講義 1	「公益社団法人日本精神保健福祉士協会の役割と課題」 望月信吾（溝口病院）		
講義 2	「精神保健福祉士の専門性Ⅰ」 鵜飼太郎（静岡福祉大学）		
講義 3	「精神保健福祉士の実践論」 中村倫也（静岡県立こころの医療センター）		
演習 1	「グループワーク」 秋津崇史（サポートセンターりりぶ）		
シンポジウム	「私の実践報告～私の成長サプリーを教えます～」 シンポジスト：小園恭平（三方原病院） 小山千菜美（サポートセンターゆめワーク） 久保田絵美子（富士宮市役所） コーディネーター：海野洋一郎（みどりの樹）		
演習Ⅱ	「グループワーク」		
講義 4	私たちの成長～かかわりを通して学び続ける～ 講師：山口雅弘（鷹岡病院）		
演習Ⅲ	「グループワーク」		

(4) 地域生活支援拠点等にかかわる研修 参加者 120 名

日 程	2024 年 7 月 18 日 (木)	場 所	静岡県経済産業会館
内 容	講義		
テーマ	地域生活支援拠点等の整備を相談支援体制の強化とつなげて考える」 ～令和 6 年度報酬改定を活かし、第 7 期障害福祉計画の体制整備を実効性のあるものにするために～ 講師：金川 洋輔 氏 (厚生労働省社会・援護局 障害保健福祉部障害福祉課地域生活・発達障害者支援室 地域移行支援専門官兼障害福祉課障害福祉専門官)		

(5) 秋季研修 参加者 63 名

日 程	2024 年 9 月 8 日 (日)	場 所	あざれあ
内 容	実践報告、シンポジウム、演習		
テーマ	権利と制度、専門性と価値のはざまから ～肩書や所属を 解放し、等身大で語り合おう～		
実践報告	行政機関に所属する精神保健福祉士が語る制度 講師：前林勝弥 (静岡市保健所精神保健福祉課) 増田喜信 (静岡県障害福祉課精神保健福祉班) 進行：中村倫也 (静岡県立こころの医療センター)		
演習	・対話型シンポジウム“フィッシュボウル”～所属や肩書を解放し、等身大で語り合おう～ 登壇者：中島和也氏・古橋昌枝氏 (社会福祉法人こころピアスタッフ) 石上泰登 (菊川市立病院)、杉本幸大 (静岡県西部児童相談所) 土屋璃沙 (日本平病院)、鶴領太郎 (静岡福祉大学) 進 行：鈴木伸二 (サポートセンターなかせ) ・グループワーク		

(6) 冬季研修 参加者 60 名

日 程	2025 年 1 月 26 日 (日)	場 所	あざれあ
内 容	講義、シンポジウム、演習		
テーマ	アップデート！！ ～誰のための何のための精神保健福祉士か～		
講 義	地域生活を支える精神保健福祉士に期待すること ～精神保健福祉士法改正により期待される役割～ 講 師：名雪和美氏 (国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所)		
演 習	連携について考える ～「ケア会議」を通してみえてくるもの～ ・対話型シンポジウム“フィッシュボウル” 登壇者：青野真利亜 (ふれあい沼津ホスピタル) 岩本有喜子 (就労継続支援 B 型事業所 らしく) 川嶋章記 (合同会社しるす 相談センターキャンパス) 進 行：澤野文彦 (公益財団法人復康会社会復帰事業部) 北舘美沙依 (サポートセンターほっと) ・グループワーク「自分たちができること」 進 行：仁科雄介 (一般社団法人 ent)		
報 告	「今期の協会活動報告」		

(7) 配信研修 参加者 22 名 (Zoom18 名、会場 4 名)

日 程	2025 年 2 月 23 日 (日)	場 所	WEB
内 容	講義		
テーマ	精神保健福祉士の専門性について 講師：佐々木敏明氏 (元聖隷クリストファー大学教授)		

(8) ソーシャルワーカーデー普及啓発イベント 参加者 (3 団体合計) : 178 名・スタッフ 30 名

日 程	2024 年 7 月 15 日 (月)	場 所	みしま未来研究所
名 称	しずおかけんソーシャルワーカーデーフェス		
内 容	メンタルヘルスラボ (精神保健福祉士協会担当) ワークショップ (蛍石・絵画制作)、もしばな (MSW 協会担当) ワーカーズカフェ (若手社会福祉士と大学生・高校生による) まちがえてもいい音楽団の演奏 (認知症の方との演奏会) 静岡福祉大学檜木ゼミ報告、田方農業高校認知症まふ展示		

(9) 静岡県ソーシャルワーク関係団体実践研究学会

日 程	2025 年 2 月 1 日 (土)	場 所	静岡県総合社会福祉会館シズウエル
内 容	研修会 「ソーシャルワークとは何かを言語化する ～ソーシャルワーカー同士でソーシャルワークを語り合おう!～」 講師：静岡福祉大学 檜木博之 氏 実践研究発表		

4. 出版・広報に係る事業

(1) (一社) 静岡 PSW つうしん

No. 18～No. 20 の編集、発行を行った

(2) ホームページ管理

日常的な更新を行い、情報発信に努めた

5. 関係機関、関係団体との連携及び講師等派遣

(1) 各種機関・団体との情報交換及び連携

① ソーシャルワーク関係団体との連携

i) 会議 (WEB にて開催)

内 容	開催回数	参加者
静岡県ソーシャルワーク関係団体連絡協議会	4 回	山口雅弘 田中幸子
ソーシャルワーカーデー企画会議	2 回	山口雅弘、田中幸子、青野真理亜 上原慶子、青島美咲

ii) 研修 (一部再掲)

内 容	日 程	派遣者
ソーシャルワーカーデー普及啓発イベント	2024 年 7 月 15 日	山口雅弘、田中幸子、青野真理亜 上原慶子、青島美咲
会推薦者等現任者研修	2024 年 10 月 20 日	—
ソーシャルワーク関係団体実践研究学会	2025 年 2 月 1 日	菅原小夜子、山口雅弘、田中幸子

②行政政策機関等との連携、意見交換、会議への参画（一部再掲）

内容	日程	場所	派遣者
静岡市成年後見制度受任者調整会議	毎月	静岡市中央福祉センター	田中幸子、望月信吾 中村倫也、山口雅弘 黒田麻喜
静岡県自立支援協議会地域移行定着部会事務局会議	2024年4月15日	障害者働く幸せ創出センター	菅原小夜子、鈴木伸二 山口雅弘
障害者ピアサポート事業打合せ	2024年4月15日	障害者働く幸せ創出センター	山口雅弘、鈴木伸二 牛島聖美
静岡市成年後見制度利用促進協議会	2024年6月11日	静岡市役所	中村倫也
入院者訪問支援事業ファシリテーター養成研修	2024年6月14日	もくせい会館	秋津崇史、望月信吾 鵜飼太郎、藤田尚、 杉村友吾、安達万里子、 澤野文彦
静岡県自立支援協議会地域移行部会研修ワーキング	2024年7月9日	オンライン	菅原小夜子
	2024年8月26日	静岡総合庁舎	菅原小夜子、山口雅弘 鈴木伸二
	2024年11月7日	オンライン	
	2025年1月30日	オンライン	
静岡県自立支援協議会地域移行部会ピアワーキング	2024年9月25日	オンライン	菅原小夜子、山口雅弘 鈴木伸二
	2024年11月7日	オンライン	
	2025年1月31日	オンライン	
静岡県健康福祉部長と静岡県社会福祉協議会連絡協議会との懇談会	2024年8月20日	クーポール会館	菅原小夜子
静岡県自殺対策連絡協議会	2024年9月4日	静岡労政会館	澤野文彦
障害福祉ナビゲーター委嘱式	2024年10月15日	静岡県本庁	菅原小夜子
精神障害者地域移行定着推進研修	2024年12月2日	グランシップ	菅原小夜子、鈴木伸二 山口雅弘、望月信吾 秋津崇史、杉村友吾 中村倫也、安達万里子 佐藤奈己
障害を理由とする差別解消推進県民会議	2024年12月17日	もくせい会館	田中幸子
精神科病院虐待対応医療従事者向け研修反省会	2024年12月25日	障害者働く幸せ創出センター	中村倫也
静岡県医療観察制度運営連絡協議会	2024年2月7日	障害者働く幸せ創出センター	望月信吾

「子どもの自殺危機対応チーム」に関する庁内ワーキング	2025 年 1 月 30 日	障害者働く 幸せ創出センター	菅原小夜子、山口雅弘
静岡県災害福祉広域支援ネットワーク会議	2025 年 3 月 17 日	オンライン	中村倫也

③関係団体との連携、会議等への参加等

内容	日程	場所	派遣者
成年後見支援センター・リーガルサポート静岡支部通常総会	2024 年 5 月 18 日	静岡県司法書士会館	菅原小夜子
静岡県司法書士会定期総会	2024 年 5 月 25 日	ホテルアソシア 静岡	川嶋章記
五会合同賀詞交歓会	2025 年 1 月 10 日	ホテルアソシア 静岡	澤野文彦
日本精神保健福祉士協会支部長会議	2024 年 4 月 21 日	ビジョンセンター浜松町	山口雅弘
認定スーパーバイザー養成研修			鶴領太郎
日本公衆衛生学会総会実行委員会説明会	2024 年 8 月 27 日	オンライン	望月信吾
全国災害対策委員会講習会	2024 年 11 月 30 日	オンライン	小山友里子、石田由貴
地域ケア会議（アドバイザー派遣）	2024 年 8 月、10 月、12 月、2025 年 2 月		安達万里子
静岡市成年後見制度受任者調整会議	毎月開催	中央福祉センター	山口雅弘、望月信吾 田中幸子、黒田麻喜

（２）講師の派遣等

研修名	日時	場所	派遣者
精神科訪問看護研修	2024 年 4 月 6 日	シズウエル	山口雅弘
ふれあい福祉相談 「こころはればれ相談」	2024 年 4 月～ 2025 年 3 月（月 2 回）	はーとびあ清水	大石信弘
2024 年度県職労働安全衛生集会	2024 年 7 月 19 日	静岡県労政会館	菅原小夜子
静岡 DPAT 研修	2024 年 7 月 14, 15 日	静岡県庁	中村倫也
静岡県入院者訪問支援事業訪問 支援員養成研修	2024 年 7 月 29 日 2024 年 10 月 28 日	もくせい会館	澤野文彦 安達万里子
精神科病院虐待対応医療従事者 向け研修会	①2024 年 8 月 16 日	浜松市福祉交流センター	中村倫也
	②2024 年 9 月 20 日	三島市民文化会館	
静岡県障害者雇用企業支援事業 研修講師依頼	2024 年 8 月 20 日	障害者働く 幸せ創出センター	海野洋一郎
成年後見センター・リーガルサポート静岡支部 研修会	2024 年 8 月 24 日		増田 喜信
精神保健福祉業務基礎研修	2024 年 8 月 28 日	静岡県庁	鈴木伸二 中村倫也

御殿場市・小山町市民後見人養成講座	2024 年 10 月 23 日	市民交流センターふじざくら	秋津崇史
2 市 2 町（沼津市、裾野市、長泉町、清水町）R6 年度「市民後見人養成講座」	2024 年 10 月 25 日	長泉町福祉会館	鈴木伸二
令和 6 年度度企業担当者のスキルアップ研修	2024 年 10 月 25 日		渡邊里佳
牧之原市・吉田町市民後見人等養成講座	2024 年 10 月 10 日	吉田町健康福祉センター	菅原小夜子
静岡県弁護士会シンポジウム	2024 年 10 月 10 日	弁護士会館	菅原小夜子
精神障害を理解するための研修会	2024 年 12 月 5 日	浜松勤労会館	佐々木正和
三島市市民後見人養成研修修了者等研修	2024 年 12 月 5 日	三島市社会福祉会館	山口雅弘
成年後見制度理解促進出前講座	2025 年 1 月 24 日	沼津特別支援学校愛鷹分校	山口雅弘

（３）事業の受託・事業への協力

①障害者職域拡大事業におけるアドバイザー派遣事業

i) 派遣実績（年間） 派遣件数：46 件

ii) アドバイザー一覧

ブロック	氏 名	所 属
東部	青木大輔	サポートセンターゆめワーク
	勝又美智子	沼津中央病院
	植松若菜	相談支援事業所ふぁんた
中部	渡邊里佳	社会福祉法人こころ
	小柳保徳	静岡市支援センターなごやか
	海野洋一郎	社会福祉法人みどりの樹
西部	川嶋章記	相談支援センターキャンパス
	金田祥史	だんだん
	海野洋一郎	社会福祉法人みどりの樹
	村上巧	だんだん
	加藤寛盛	地域若者サポートステーションはままつ

②職業能力開発校への相談派遣事業

i) 内容及び実績

	相談人数（実人数）	相談件数（延べ件数）
静岡県立工科短期大学校（静岡キャンパス）	89 人	96 件
静岡県立工科短期大学校（沼津キャンパス）	100 人	103 件
静岡県立浜松技術専門学校	0 人	0 件
静岡県立あしたか職業訓練校	2 人	2 件

ii) 派遣者一覧

派遣先	派遣者
静岡県立あしたか職業訓練校	山口雅弘
静岡県立工科短期大学校 沼津キャンパス	石川裕己、水野拓二、山口雅弘、秋津崇史、石田由貴、勝又美智子、笹原紀子、池田友美、鈴木伸二
静岡県立工科短期大学校 静岡キャンパス	伊豆川歩美、興津奈緒美、黒田麻喜、田中幸子、望月信吾、中村倫也
静岡県立浜松技術専門校	川嶋章記、海野洋一郎

※浜松技術専門校に関しては実績なし

③静岡県精神障害者支援の障害特性と支援技法を学ぶ研修事業

日 程	2024 年 12 月 9 日（月）、18 日（水）	場 所	オンライン開催
内 容	講義（事前視聴）、演習（オンライン）	修了者	127 名
講義 1	精神障害者の特性の総論的理解	水野拓二（鷹岡病院）	
講義 2	障害特性の理解と具体的な対応①	澤野文彦（公益財団法人復康会）	
講義 3	障害特性の理解と具体的な対応②	澤野文彦（公益財団法人復康会）	
講義 4	障害特性の理解と具体的な対応③	中村倫也（静岡県立こころの医療センター）	
講義 5	障害特性の理解と具体的な対応④	中村倫也（静岡県立こころの医療センター）	
講義 6	障害特性の理解と具体的な対応⑤	中村倫也（静岡県立こころの医療センター）	
講義 7	社会資源と連携、家族支援	前林勝弥（静岡市保健所）	
講義 8	当事者の想いを理解	当事者 6 名（社会福祉法人こころ） 菅原小夜子（社会福祉法人こころ）	
演習 1	グループワーク ・ 障害特性の理解と想定	澤野文彦（公益財団法人復康会） ・ 想定場面での対応方法及び援助技術①	
演習 2	グループワーク ・ 障害特性の理解と想定	中村倫也（静岡県立こころの医療センター） ・ 想定場面での対応方法及び援助技術②	
演習 3	グループワーク ・ 効果的な支援のための関係機関との連携	前林勝弥（静岡市保健所）	

④静岡県精神障害者ピアサポート研修

i) 基礎研修

日 程	2024 年 8 月 5 日（月）、6 日（火）	場 所	静岡県男女共同参画センターあざれあ
内 容	講義、演習	修了者	36 名

ii) 専門研修

日 程	2024 年 10 月 10 日（木）、17 日（金）	場 所	静岡県男女共同参画センターあざれあ
内 容	講義、演習	修了者	32 名

iii) フォローアップ研修

日 程	2025 年 1 月 28 日（火）、29 日（水）	場 所	静岡県産業経済会館
内 容	講義、演習	修了者	27 名

(4) 精神保健福祉士を養成する大学等との情報交換及び連携

大学	内容	日時	派遣者
聖隷クリストファー大学	実習報告会/実習担当者会議	2024 年 7 月 22 日	佐藤奈己
	施設利用説明会及び就職懇談会	2025 年 3 月 10 日	杉村友吾

6. 体制整備

(1) 組織体制の見直し・強化

組織体制の再編についての検討を引き続き行った

受託事業からの課題を県とも協議し、次年度の体制整備に繋がるための検討を進めた

(2) 事務局体制の整備

事務局体制の整備が引き続き課題として残った。人員体制やハード面の強化等、引き続き取り組む必要がある。課題について検討を続けているが解決には至っていない

毎月事務局会議を開催し、情報共有と課題検討ができる体制整備を図った

(3) 意見集約の体制整備

ブロック活動やワーキングの活動を通して実態把握や課題集約を行った

職能団体として会員の声を集約できる体制整備までは至らなかった

7. 災害対策

(1) 能登半島地震についての情報共有

- ・2024 年 1 月に発生した能登半島地震への対応、現地の状況等を理事会等で共有した。現地の派遣活動に参加した会員の活動状況や県内の支援状況等について情報収集、共有を図った

(2) 公益社団法人日本精神保健福祉士協会主催事業への委員派遣

事業名	日時	場所	参加者
第 4 回全国災害対策委員講習会	2024 年 11 月 30 日	オンライン	中村倫也、小山友理子 石田由貴（災害対策委員）

(3) 県内関係団体等への委員派遣等（一部再掲）

事業名	日時	派遣者
静岡 DPAT 研修	2024 年 7 月 14 日、15 日	中村倫也
静岡県災害福祉広域ネットワーク会議	2025 年 3 月 17 日	中村倫也

(4) その他

- ・富士市被災者支援ネットワーク会議へ参加した

8. 要望書の提出、見解の表明等

(1) 病院閉鎖に伴う要望書の提出

県内において、精神科病院閉鎖が急遽決定したため、社会的復権と人権を擁護する観点から閉鎖に伴う対応についての要望書を行政（浜松市）へ提出した。

事業名「精神科病院の閉鎖等に係る対応について（要望）」（別紙 1 参照）

9. 委員等の派遣 ※年度内に新規または継続で派遣推薦した委員のみ記載

委員会名	氏名	所属
静岡県災害福祉広域支援ネットワーク会議委員	中村倫也	静岡県立こころの医療センター
精神科救急医療システム連絡調整委員会委員	澤野文彦	公益財団法人復康会
措置入院適正運営協議会委員	澤野文彦	公益財団法人復康会
静岡県福祉サービス運営適正化委員	澤野文彦	公益財団法人復康会
静岡県自立支援事業契約締結審査会委員	杉村 友吾	M ネット東遠
静岡県精神医療審査会	久野満津代	沼津中央病院
	丸山祐貴子	静岡県立こころの医療センター
	田中佐代子	静岡てんかん・神経医療センター
	黒田麻喜	
	小笠原潤子	相談室こころ
	鵜領太郎	静岡福祉大学
静岡県依存症対策連絡協議会委員	菅原小夜子	社会福祉法人こころ
静岡県障害福祉ナビゲーター	富岡みなみ	地域活動支援センターここカラ
	平川聖子	多機能事業所ループ ライム
富士市障害支援区分判定審査会	白川怜小	鷹岡病院
富士宮市権利擁護ネットワーク会議委員	山口雅弘	鷹岡病院
小山町いじめ問題委員会(第三者委員会)	山口雅弘	鷹岡病院
御殿場市いじめの防止等対策推進委員会	山口雅弘	鷹岡病院
裾野市障害支援区分判定審査会	杉山智子	沼津中央病院
三島市成年後見支援センターコーディネート委員会	伊藤田恵子	サポートセンターひまり
静岡D P A T連絡協議会	中村倫也	静岡県立こころの医療センター
沼津市障害支援区分判定審査会	久野満津代	沼津中央病院
	若尾藍	ふれあい沼津ホスピタル
静岡市介護認定審査会	望月信吾	静岡県立こころの医療センター
	石割聖委子	駿府こころのクリニック
	中村倫也	静岡県立こころの医療センター
	石川裕己	就労継続支援B型グリーンワークス・リラ
	太田雅士	静岡県立こころの医療センター
	岩ヶ谷香織	清水駿府病院
	望月千衣子	清水駿府病院
	沼尻武能	日本平病院
静岡市地域包括支援センター運営協議会	沼尻武能	日本平病院
静岡市障がい者虐待対応会議	田中幸子	
	望月信吾	溝口病院
	興津奈緒美	静岡市支援センターなごやか
静岡市認知症初期集中支援チーム検討委員会	中村倫也	静岡県立こころの医療センター
藤枝市障害支援認定審査会	渡邊祐理	相談室こころ
	鵜領太郎	静岡福祉大学

静岡市障害支援区分認定等審査会	田中佐代子	静岡てんかん・神経医療センター
	林真子	静岡県立こころの医療センター
	土屋璃沙	日本平病院
静岡市精神医療審査会	伊藤陽子	株式会社 Be happy
	岩川純子	就労継続支援B型りなむ
	橋本睦美	静岡てんかん・神経医療センター
島田市障害支援区分認定等審査会	渡邊里佳	社会福祉法人こころ
	八木光春	グループホームMネット
榛原総合病院組合障害支援区分審査会	菅原小夜子	社会福祉法人こころ
	安達万里子	相談室こころ
川根本町障害支援区分認定審査会	坪井明日香	相談室こころ
袋井市障害者計画推進協議会	渡邊里佳	社会福祉法人こころ
掛川市障害支援区分認定審査会委員	石神早耶子	小笠病院
掛川市障害支援区分認定等審査会	石神早耶子	小笠病院
	荒尾翼	Mネット東遠
	後藤瑞希	菊川市社会福祉協議会
浜松市障害支援区分審査会	鈴木淳子	朝山病院
	大場拓弥	浜松市南障がい者相談支援センター
浜松市精神医療審査会	川嶋章記	相談センター キャンパス
	小山友里子	袋井市役所
	山本恵理子	はまかぜ
	玉木祐次郎	浜松市障がい者基幹相談支援センター
浜松市介護認定審査会委員	平野慎一郎	三方原病院
	高木弘貴	神経科浜松病院
	山下由佳	医療法人好生会 はまかぜ
浜松市社協自立支援事業契約締結審査会委員	平川聖子	多機能事業所ループ
第84回日本公衆衛生学会総会 実行委員	菅原小夜子	社会福祉法人こころ
日本精神保健福祉士協会 災害対策委員	石田由貴	サポートセンターりりぶ
	中村倫也	静岡県立こころの医療センター
	小山友里子	袋井市役所

11. 外部表彰受賞

(1) 外部表彰受賞

受賞者氏名	受賞内容
前林 勝弥（静岡市保健所）	静岡県知事功労別表彰（保健衛生功労）

2. 会員の動向

(1) 新入会 18名

氏名	所属
石上 剛	静岡市葵区役所 障害者支援課
宇野 明	中部健康福祉センター 福祉課 精神保健福祉班
小沢 響子	メンタルクリニック ダダ
金坂 恵美	富士市鷹岡地域包括支援センター
川口 実	公益財団法人復興会 サポートセンターひまり
笹原 紀子	公益社団法人復興会 相談支援事業所 サポートセンターひまり
櫻井 はな	静岡市役所 子ども未来局 児童相談所
杉山 淳哉	社会福祉法人清承会養護老人ホーム 清水松風荘
古橋 颯海	風こころのクリニック
森上 雅彦	医療法人社団リラ 溝口病院
山田 広美	東伊豆町役場 住民福祉課
山本 久乃	静岡市中心身障害者福祉センター いこいの家
柚原 史織	社会福祉法人牧之原やまばと学園 生活支援センターやまばと
吉山 瑠菜	医療法人社団種光会 朝山病院 地域包括ケアシステム推進室
横山 遥香	NPO 法人遠州精神保健福祉を進める市民の会 ひきこもりサポートセンターこだま
米川 莉子	医療法人社団高草会 焼津病院 地域連携室
若尾 藍	医療法人社団静岡康心会ふれあい沼津ホスピタル医療社会サービス室
渡邊 みなみ	あしたか太陽の丘 ワークスとおがさ

※敬称略 五十音順

(2) 退会 25名 (年度内の退会扱い者含む)

氏名	所属
飯田 みどり	社会福祉法人草笛の会 地域生活支援センターカレント
石川 達朗	所属なし
石澤 一美	(株) FC コーポレーション 就労移行支援事業所 アポーヨ富士
五十嶋 大幹	沼津市役所
伊藤 悠美子	サポートセンター りりぶ
植松 若菜	相談支援事業所 ふぁんた
内山 綾音	神経科浜松病院
江川カヨコ	所属なし
大川 晋二	所属なし
小泉 麻由	静岡市駿河区役所 生活支援課
鈴木 奈美江	所属なし
鈴木 多美	浜松市精神保健福祉センター
田尻 ゆき	サポートセンターほっと
服部 正也	服部病院
八田 智代	所属なし
疋田 恭子	精神科・神経科 浜北病院 社会復帰課
飛田 義幸	静岡福祉大学 福祉心理学科
堀 美文	静岡市支援センターなごやか
巻田 和輝	清水駿府病院
水谷 友香	朝山病院
村上 美和子	所属なし
村松 裕美	(社福) みどりの樹 奏
山上 朋子	NTT 東日本伊豆病院
山元 恵	所属なし
渡邊 みなみ	あしたか太陽の丘 ワークスとおがさ

※敬称略 五十音順

2025 年 4 月 1 日現在 会員数 400 名

令和 7 年 3 月 28 日

精神科病院の閉鎖等に係る対応について（要望）

浜松市長 中野祐介様

一般社団法人静岡県精神保健福祉士協会

会長 菅原小夜子



平素より本協会事業に格別のご理解、ご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

昨今、様々な要因によりやむなく閉鎖する精神科病院が全国で見受けられます。このたび静岡県内でも佐鳴湖病院が閉鎖をする事態となりました。突然の報せであること共に、患者様の行き先が定まらないなかでの閉鎖に衝撃を覚えております。このような事態が今後も増えていくことを大変危惧しております。

本協会は、精神障害がある方々の社会的復権と福祉に寄与し、人権を擁護する職能団体として、以下の通り要望致します。

記

1. 自己決定に基づく行先の検討

精神医療国家賠償請求訴訟の原告の 1 人である伊藤時男さんは、福島第一原発事故での避難による転院をきっかけに“退院という選択肢”をようやく得ることができ、現在は地域で自分らしい生活を実現しています。これは、避難という出来事がなければ、未だ退院できなかった精神医療の現実を意味しています。

そこで、閉鎖する病院をご利用中の患者様に丁寧かつ真摯な説明を行い、転院を前提とした病院への振り分けでなく、患者様を適切にアセスメントしたうえで、ご本人の自己決定に基づいた行先へと移れるようご配慮をお願い致します。しかし、閉院手続きに伴う限られた時間の中での移行先の決定においては、十分なアセスメントができないことも想定されます。移行先においても、再アセスメントを行い、ご本人の希望が反映されるようにご指導をお願いいたします。

2. 引継ぎ先に適切な情報提供がされること

入院及び外来の患者様が病院の閉鎖により大きな不安を抱えることは想像するまでもありません。引き続き適切な医療及び支援を受けることができるように、移行先に適切に情報提供がされるようにご指導をお願いいたします。

3. 意思決定支援

患者様は転院・退院後の生活に対し不安を抱えていたとしても、適切な形で自らの気持ちや意思を表明することが困難な場合や、自分で決めていくための支援が必要な場合があります。

一人ひとりの患者様に丁寧にかかわり、意思決定支援を行い、自らの意思にもとづいた人生を送ることができるようご指導をお願いいたします。

4. 地域援助事業者等の関与及び協議会の活用

今回起きたことを医療機関内の問題として終わらせることなく、地域援助事業者等も積極的に関与し、地域全体で協力して取り組むことができるよう、地域課題として協議会を活用しながら官民（医療・福祉・行政）協働での取組をお願い致します。

5. 情報公開

最終的な患者様の動向について、可能な範囲での公表をお願いいたします。

6. 行政機関による適切な関与

患者様の権利が侵害されている状態にないか、行政機関が継続的に、適切に関与していただけますようお願いいたします。

今回の佐鳴湖病院閉鎖に伴う混乱は、今後の精神医療のあり方の見直しや地域支援体制の強化が急務であることの現実を、私たちに突き付けた事象であると認識しております。国が平成16年に示した精神保健医療福祉の改革ビジョンの「入院医療中心から地域生活中心へ」という基本的な方向性から20年余りが経過しようとしています。また、2022年の障害者権利条約の総括所見における19条への指摘事項を通して、今回のことをどのように捉えるべきかを考えさせられる出来事となりました。しかしながら、それらを推し進めていくための様々な施策によって、同様な事態が起こることも容易に想像できます。

そのため、医療・福祉・行政が協働して対応できるための協議の場を通して体制構築を図っていただくことを希望します。その場合、当協会は協力を惜しみません。

以上

【第2号議案】2024年度決算報告及び会見監査報告

2024年度収支決算について、第6期財務諸表（別紙）にて報告する。

監査報告

一般社団法人静岡県精神保健福祉士協会規約により、令和6年度決算及び事業報告を監査したところ、収入、支出、共に適正であり、諸帳簿と相違なく、事業も適正に実施されていることを認めます。

令和7年4月17日

一般社団法人 静岡県精神保健福祉士協会
会 長 菅原 小夜子 殿

監 事 三谷 美貴子 

監 事 前林 勝 弥 

監 事 藤 田 尚 

【第3議案】2025年度及び2026年度役員選任に関する件

<提案趣旨>

現在の役員（理事、監事）の任期が2024年度定期総会終結の時までのため、定款及び役員選出規定に基づき、選挙管理委員会から提出された2025年度及び2026年度役員候補者名簿に掲載された役員候補者について、2025年度及び2026年度役員として選任する。

また、当協定会款31条に規定される顧問を下記のとおり置くことにする。

<提案内容>

理事

「2025年度及び2026年度役員候補者名簿」参照

ブロック	定数	氏名	所属
東部	5名以内	鈴木 伸二	サポートセンターなかせ
		秋津 崇史	サポートセンターりりぶ
		仁科 雄介	ライフステーションえんと
		山口 雅弘	鷹岡病院
中部	8名以内	望月 信吾	溝口病院
		鵜 領太郎	静岡福祉大学
		田中 幸子	一般社団法人ソーシャルワーク清水
		菅原 小夜子	社会福祉法人こころ
		安達 万里子	相談室こころ
西部	7名以内	川嶋 章紀	相談センターキャンパス
		海野 洋一郎	社会福祉法人みどりの樹
		平野 慎一郎	三方原病院
		杉村 友吾	相談支援事業所Mネット
		佐々木 正和	聖隷クリストファー大学

※敬称略、各ブロック届け出順

監事

担当	氏名	所属
財務担当	藤田 尚	菊川市立総合病院
業務担当	澤野 文彦	公益財団法人復康会
	前林 勝弥	静岡市保健所

(敬称略、五十音順)

顧問

三谷 美貴子

【2025 年度及び 2026 年度役員候補者名簿】

一般社団法人静岡県精神保健福祉士協会 選挙管理委員会

一般社団法人静岡県精神保健福祉士協会役員選出規程第 8 条 8 項により、役員候補者名簿を 2025 年度定時総会に提出する。

<理事立候補者>

14 名

※敬称略、各ブロック届け出順

ブロック	氏 名
東部 (定数 5 名以内)	鈴木 伸二
	秋津 崇史
	仁科 雄介
	山口 雅弘
中部 (定数 8 名以内)	望月 信吾
	鵜 領太郎
	田中 幸子
	菅原 小夜子
	安達 万里子
西部 (定数 7 名以内)	川嶋 章記
	海野 洋一郎
	平野 慎一郎
	杉村 友吾
	佐々木 正和

<理事会選出による監事候補者>

(敬称略、五十音順)

担当	氏 名
財務担当	藤田 尚
業務担当	澤野 文彦
	前林 勝弥

【報告事項 1】

一般社団法人静岡県精神保健福祉士協会 2025 年度事業計画（案） （自：2025 年 4 月 1 日 至：2026 年 3 月 31 日）

定款第 3 条の目的を達成するため、定款第 4 条に基づき、次の事業に取り組む。

I 2025 年度活動指針

1. 一般社団法人静岡県精神保健福祉士協会活動指針

- （1）社会的責務を果たすことのできる人材育成を行い、会員の資質の向上を図る
- （2）精神障害者の社会的復権をめざし、誰もが安心して暮らすことができる地域をつくる
- （3）県民のこころの健康の増進を図る

2 重点課題

令和 7 年度は、当協会にとって新たなスタートの年となる。5 年間の一般社団法人日本精神保健福祉士協会（以下、日本協会）の入会促進を経て一本化の体制となる年である。あらためてこのことを実施する理由は、いまだ果たされない精神障害者の社会的復権や益々の深刻化、複雑化する精神保健医療福祉分野における多くの課題に対し、様々な領域からの要請が今まで以上に増加してきていること、一人ひとりの活動も多岐にわたる中で、より専門性に裏打ちされた実践が求められているためである。こうした状況を踏まえ、日本協会の活動を連動させることにより、より強固な組織体制と職能団体としての質の高い実践を展開できる人材育成の機会を担保させることが可能となるとした。

しかし、退会者が入会者を上回る実態がより顕在化したことや日本協会への入会の停滞は、結果正会員の減少につながるものが懸念される。これは、組織体制の弱体化を意味し、今後の当協会の活動に大きな影響を及ぼすことが予想される。そのため、今年度は今後の安定的な活動を維持するために、更なる組織強化を図っていくことが最も重要な課題と位置付ける。

また、現在大きな社会問題となっているメンタルヘルスの課題やそれに伴う自殺者の増加、特に若年層を取り巻く様々な問題は、将来の社会の姿に暗い影を落としているといっても過言ではない。更に、制度の枠には当てはまらないものの何らかの支援を必要とする人たちの層の拡大に対しても積極的、主体的に取り組んでいく必要がある。つまり、私たちに求められているのは、すべての人々が健やかに安心して自分らしく生き続けられる社会の実現を目指すことであり、ソーシャルワークの専門職として社会を変革していくための力量をさらにつけていくことである。

そして、昨年度末には、佐鳴湖病院閉鎖に伴う対応についての要望書を浜松市に提出した。精神科病院の閉鎖は、今後の精神医療のあり方の見直しや地域支援体制の強化が急務であることをあらためて認識させられた出来事でもある。私たちの存在意義は、どんな局面においても精神障害者の社会的復権の実現を目指し続けることである。しかし、私たちを取り巻く状況は刻々と変化し、時に一人の力では太刀打ちできない大きくいくつもの壁が立ちはだかることも多い。一方で、どの時代、どんな状況であってもその壁は必ず打ち砕けると強い信念を持ち続けることが、日々のソーシャルアクションへとつながっていく。その集合体が当協会であり、職能団体だからこそ一人ひとりの活動の下支えをしながら、実践の価値を高めていくことを可能にするのである。50 周年記念誌のテーマを「原点回帰」とした所以はそこにある。今年度は新たな組織体制となり、以下に示す重点取組に注力していく。

（1）人材育成

東部、中部、西部のブロック活動を通して身近な地域で人材育成を行い、社会的要請に応じられる中核

人材育成へつなげ、全体のボトムアップを図る。それに伴い、スーパービジョンの土壌形成と、構成員の成長ニーズを探り、協会主催の研修等により専門職としてのキャリア形成をより効果的、効率的に実施できる体制整備を再構築する

- ①協会員の効果的なキャリア意識と形成を図るため、生涯研修制度（さくらセット）の理解及び活用について、ブロック活動や研修の中に取り入れていく
ピア活動、ピアスタッフを地域に浸透させていくために、入院者訪問支援事業やブロック活動を通して現場へ繋げながら、協会活動へと発展させていく
- ②誰もがスーパービジョンを受ける機会が担保できるように、グループスーパービジョンが実施できる取組につなげるためにワーキングの活動に着手し、日本協会東海北陸ブロックとも連携していく
- ③認定スーパーバイザー養成研修受講者を積極的に募っていく
- ④精神保健福祉士としての価値や専門性にこだわり続け、常にクライアントとの関わりと関係を大事にし、権利擁護を我がごととして捉えられる人材を増やしていく
- ⑤多職種が開催する研修等で精神保健福祉士が持つ権利擁護の視点について意見を発信する
- ⑥各団体が主催する研修企画に参画し、多職種・多機関と一緒に取り組むことで、一層の視野を広げていく
- ⑦各ブロックで、ブロック単位の研修企画立案を活発に行い、ブロック協力員の主体性を育むとともに、全体のボトムアップを図る

（２）政策提言

会員から各種法改正や報酬改定の影響等の意見を集め、次の改正や改定に向けて、エビデンスを蓄積する。

現場の声を拾い・蓄積することにより、エビデンスとし、それを基に優先課題を見極め、関係団体等との協議の場を増やし、提言につなげるための諸活動を行う。

- ①地域共生社会の実現のひとつとして、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の構築を目指す中で顕在化する課題に対し、県及び政令市に対し適時適切に政策提言を継続して行う。
- ②各ブロック及びWGでの活動、各種受託事業、各種委員（精神医療審議会、精神医療審査会等）の派遣等を通しての課題を集約する機会を設定し、必要な事項より政策提言を行う。

なお、①及び②により、現場の会員に還元し、職能団体としての政策提言の必要性の浸透を図る。

- ③日本精神保健福祉士協会から要請のあるソーシャルアクションに継続し積極的に協力する。

（３）組織体制の強化

恒常的な課題となっている福祉人材の不足がある中で、求められる活動領域の広がりや進み協会未加入者や様々な分野を経て資格取得に至る会員の増加など、背景や持ち合わせる価値観など加速度的に多様化している。その現状に対応すべく、これまで以上に各ブロック単位での「顔の見える関係」からネットワークの強化を図り、発展的に災害時にも有機的に機能する体制を整える。

- ①職能団体の役割や意義についての発信と入会促進のための取り組みを行う
 - ・日本協会と県協会の一本化による意義の再周知により正会員の増加を目指す
 - ・教育機関との連携やSNSの活用により、特に若年層へ向けた情報発信を行う
- ②組織体制の見直し
 - ・委員会や部会体制等、組織体制の見直しを行い協会活動の強化を図る
 - ・協会の次世代を担う中核人材の育成も見据えた協会体制の見直しを行う
- ③ネットワークの強化

- ・各ブロックにて定期的な勉強会や交流会を開催し、「顔の見える関係」の構築を図りお互いに学び合える組織作りを目指す
- ・身近な会員同士の繋がりから組織率の向上及びネットワークの強化を図る
- ・ブロック単位でのネットワーク強化から災害時にも有機的に機能する体制整備を図る

④法人運営の安定化を図る

- ・事務局機能の強化及び収支バランスの適正化を目指す
- ・規約整備を行う
- ・確実な会費徴収のため口座引き落とし登録100%を目指す

II 事業計画

1. 総会

日程	2025 年 6 月 1 日（日）	場所	シズウエル
内容	2024 年度事業報告 2024 年度決算報告及び会計監査報告 2025 年度及び 2026 年度役員選任に関する件 2025 年度事業計画（案）及び 2025 年度予算（案）		

2. 理事会、委員会等

（1）理事会、理事の会合、三役会（日程は予定、変更の可能性あり）

参集での開催を基本とする。三役会や臨時の会合等については、WEB 会議等も活用して適宜開催する

通常理事会	4 月 13 日、7 月 5 日、11 月 16 日、3 月 14 日
臨時理事会	適時開催
理事の会合	5 月 18 日、6 月 1 日、8 月 10 日、10 月 18 日、12 月 20 日、2 月 15 日
三役会議	毎月 1 回程度開催（※適宜開催）

（2）部・委員会・ワーキング・プロジェクト

部・委員会	活動内容
総務	会員管理、会計、委託事業の実施
つうしん	「（一社）静岡 PSW つうしん」を年 4 回発行する ペーパーレス化に向けた準備を行う
ホームページ等	ホームページの管理、情報更新を行う WEB や SNS 等を利用した情報発信についての検討を行う
災害対策	他団体や関係団体主催の研修・会議等へ委員を派遣する 各種会議へ委員として参画し関係団体との連携を強化する
メンタルヘルス相談プロジェクト	工科短期大学への派遣事業等、メンタルヘルスにかかわる事業からの課題集約を図り、県との協議を行う 今後の体制整備に向けた検討を行う
調査研究	社会的な課題に対する調査研究を行う

スーパービジョン体制整備 ワーキング	グループスーパービジョンの機会提供等、会員がスーパービジョンを体験できる機会の創出と普及啓発を行う スーパーバイザー養成研修への推薦及び候補者の検討 スーパーバイザーの活動状況の把握と情報交換を行う
相談ワーキング	居住支援における権利擁護の視点に関する実態調査を実施、検証を行う 県内の相談支援体制及び自立支援協議会の現状を把握し、課題を抽出する 抽出した課題から、研修企画やソーシャルアクションについて考える
医療ワーキング	ブロック活動等で抽出された精神科医療機関が抱える課題を共有し、明確にする 精神科医療機関に所属する精神保健福祉士の質の担保・向上が図れるような取り組みを開催する 地域移行促進のため相談 WG と協働し、医療と福祉の連携の在り方を協議する機会を創る。
就労ワーキング	ワーキング会議の開催をする（年 2 回予定、WEB 開催を基本に必要なに応じて参集） 必要に応じて、アドバイザー事業のボトムアップ、認識共有のための活動を行う 就労選択支援事業施行に伴う、地域の動向や効果などの実態調査、意見交換を行う
ブロック	ブロック活動を企画・実施する（詳細下記参照）
関係団体連携	ソーシャルワーカーデーフェスの企画運営を行う ソーシャルワーク関係団体連絡協議会等、各種会議・学会等への参画
成年後見ワーキング	各種会議等への出席、研修講師派遣等を行うことで各種団体との連携や外部及び、協会内への発信を行う 課題別研修を開催する（WEB または配信及びブロック研修） 日本精神保健福祉士協会認定成年後見人ネットワーク「クローバー」県内登録者のつどいを開催する（WEB、年 1 回を予定） 「クローバー」運営事業の部分受託に向けた検討を行う
権利擁護ワーキング	企画研修の実施や研修企画への協力、講師派遣等を行う 権利擁護に関わる取り組みについての情報収集及び課題検討、会員 への発信等を行い、会員の意識向上を図る 協会が実施する権利擁護に関わる取り組みへ協力・参画する

（３）ブロック活動（日程未定）

ブロック	活動内容
東部	・会議の開催（ZOOM） ・まじめに勉強する会（ZOOM） ・MSW 協会合同事例研修会
中部	・会議の開催 ・ソーシャルワーカーデーフェスの企画運営 ・研修会（各地区、合同）の開催、交流の機会の検討

西部	【中東遠地区】 ・しゃべくり中東遠の企画、運営 ・勉強会の企画、運営 ・ネットワークの強化 オープンチャットの活用、協会からの派遣業務等を担う中核人材の交流促進 【浜松地区】 ・会議の開催（8回程度、その他適宜開催） ・第18回浜松地区精神保健福祉士等勉強会の実施

3. 研修事業

（1）初夏研修

日程	2025年6月1日（日）	場所	シズウエル
内容	テーマ：こどもや若者を取り巻く現状と課題 ～コロナ化を経験したこども達のメンタルヘルス～ 講師：二宮貴至氏（浜松市精神保健福祉センター所長）		

（2）基幹研修Ⅰ

日程	2025年8月9日（土）	場所	静岡県男女共同参画センターあざれあ
内容	講義及び演習、（公社）日本精神保健福祉士協会の委託事業として実施する		

（3）ベーシック研修

日程	2025年8月9日（土）、10日（日）	場所	静岡県男女共同参画センターあざれあ
内容	講義及び実践報告、演習等（9日は基幹研修Ⅰと合同開催）		

（4）秋季研修

日程	2025年9月7日（日）	場所	静岡県総合社会福祉会館シズウエル
内容	講義、演習等（内容未定）		

（5）冬季研修

日程	2026年1月31日（土）	場所	静岡県総合社会福祉会館シズウエル
内容	講義等（内容未定）		

（6）課題別研修等 各ブロック、ワーキング等で企画・実施

（7）その他研修 必要に応じて開催

4. 広報・情報発信

- （1）（一社）静岡 PSW つうしん 年4回発行（6月、8月、12月、3月）
- （2）ホームページの管理及び更新
- （3）チェックインシステムの運用
- （4）ペーパーレス化の検討、WEB や SNS 等を活用した情報発信に向けた検討を行う

5. 関係機関、関係団体との連携及び社会活動の実践

(1) 精神保健福祉士を養成する大学等との情報交換及び連携

(2) 各種機関・団体との情報交換及び連携

①ソーシャルワーク関係団体との連携

i) 会議（WEBにて開催予定）

内容	開催月
静岡県ソーシャルワーク関係団体連絡協議会	年4回程度予定

ii) 研修

内容	日程
ソーシャルワーカーデー普及啓発イベント	2025年7月19日（土）
会推薦者研修	未定
実践研究学会	2026年2月7日（土）

②県弁護士会・司法書士会・法テラス静岡等との協力・連携

③行政機関との連携、意見交換

- ・静岡県自立支援協議会地域移行部会ワーキングへの参画等
- ・他意見交換や政策提言、要望等を行う

(3) 講師の派遣、研修企画運営への参画

研修会等の講師派遣、研修企画運営への参画等を行う

(4) 事業の受託及び事業への協力

①公的機関からの事業の受託

i) 静岡県立工科短期大学校等派遣事業への協力

- ・浜松技術専門校、あしたか職業訓練校に対する相談派遣は例年通り実施する
- ・工科短期大学校（静岡校、沼津校）については、これまで行ってきた相談派遣の充実、体制整備を図る。昨年度同様、全学生を対象とした面談を実施する

ii) 障害者職域拡大事業におけるアドバイザー派遣事業への協力

iii) 静岡県精神障害者支援の障害特性と支援技法を学ぶ研修事業への協力

iv) 静岡県障害者ピアサポート研修事業への協力

②その他公的な事業等への協力

6. 災害対策関連事業

(1) 災害対応に関する派遣要請への対応（情報整理、会員への発信、人員派遣等）

(2) 公益社団法人日本精神保健福祉士協会主催事業への委員派遣

(3) 県内ネットワーク会議等への参画、委員派遣

(4) 他県災害策委員会等との交流、情報交換

7. 会費納入方法の変更に係る手続き

銀行引き落としの手続きが済んでいない会員に対し呼びかけを行い、全会員が引き落としでの会費納入ができるよう手続きを進めていく。

8. 委員等の派遣等

行政機関からの推薦依頼を受け、委員を推薦・派遣する

9. 規約・規程の整備

規約・規程を整備する

Ⅲ 2025（令和7）年度収支予算に関する件

収支予算書

令和 7 年 4 月 1 日 から令和 8 年 3 月 31 日 まで

（単位：円）

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①会費収入				
正会員会費収入	2,814,000	3,185,000	△371,000	7,000 円×402 名
入会金収入	20,000	50,000	△ 30,000	1,000 円×20 人
会費収入計	2,834,000	3,235,000	△ 401,000	
②事業収入				
委託事業	3,800,000	3,000,000	800,000	県からの委託事業
研修事業	900,000	900,000	0	
その他の収入			0	
事業収入計	4,700,000	3,900,000	800,000	
③補助金等収入				
支部活動協力費収入	547,500	511,500	36,000	前年度実績による
補助金等収入計	547,500	511,500	36,000	
④雑収入				
受取利息収入	630	20	610	預金利息
雑収入	0	0	0	
雑収入計	630	20	610	
事業活動収入合計	8,082,130	7,646,520	435,610	
2. 事業活動支出				
① 事業費支出				
給料手当支出	1,500,000	850,000	650,000	事業給与、研修講師等
会議費支出	150,000	300,000	△150,000	
旅費交通費支出	600,000	950,000	△350,000	研修講師交通費等
通信運搬費支出	500,000	650,000	△150,000	
消耗品費支出	300,000	250,000	50,000	
印刷製本費支出	400,000	800,000	△400,000	総会資料、つうしん
賃借料支出	600,000	550,000	50,000	会場使用料等
諸謝金支出	500,000	500,000	0	事業謝金、外部委託謝金等
租税公課支出	0	0	0	
雑支出	70,000	100,000	△30,000	
事業費支出計	4,620,000	4,950,000	△330,000	

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
②管理費支出				
給料手当支出	1,200,000	1,100,000	100,000	事務局員給与
法定福利費支出	5,000	5,000	0	労働保険料
会議費	100,000	0	100,000	会議弁当代
交際費支出	20,000	80,000	△60,000	
旅費交通費支出	550,000	400,000	150,000	交通費、通勤手当等
通信運搬費支出	750,000	600,000	150,000	電話代、郵送料、システム使用料等
消耗品費支出	60,000	50,000	10,000	事務局消耗品、備品等
修繕費支出	10,000	10,000	0	
印刷製本費支出	80,000	10,000	70,000	
光熱水料費支出	150,000	120,000	30,000	シズウエル共益費
賃借料支出	100,000	5,000	95,000	会議室賃借料
諸謝金	6,000	0	6,000	
租税公課支出	80,000	80,000	0	法人県市民税均等割
諸会費支出	30,000	30,000	0	
雑支出	300,000	200,000	100,000	会計士報酬、振込手数料等
管理費支出計	3,441,000	2,690,000	751,000	
事業活動支出合計	8,061,000	7,640,000	421,000	
事業活動収支差額	21,130	6,520		
Ⅱ 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
投資活動収入合計	0	0	0	
2. 投資活動支出				
①固定資産取得支出				
什器備品購入支出				
投資活動支出合計	0	0	0	
投資活動収支差額	0	0	0	
Ⅲ 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
財務活動収入合計	0	0	0	
2. 財務活動支出				
財務活動支出合計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
Ⅳ 予備費支出		0	0	
	0	0	0	
当期収支差額	21,130	6,520	14,610	
前期繰越収支差額	1,494,795	2,302,005	△807,210	
次期繰越収支差額	1,515,925	2,308,525	△792,600	

ただし、科目間の流用を認める

